



人・家畜・感染症

国立民族学博物館公開講演会—グローバル化時代の関係をさぐる



人と家畜の関係をとおして、
21世紀における地球環境を展望します。



今日の私たちの豊かな食生活や暮らしは、世界各地で生産される肉、乳製品、皮や毛などの家畜が産み出すものに支えられています。いっぽうで、家畜などの動物から人に感染する、新型インフルエンザのような病気もグローバル化とともに増えています。

二〇〇九年十月九日〔金〕午後六時三十分～九時十五分
会場…日経ホール（東京都千代田区大手町一―三―七 日経ビル三階）（開場…午後五時三十分）
定員…六〇〇名 参加費…無料



講演内容

★手話通訳あり

講演1 人は家畜とどのようにつきあっているか？ / 池谷 和信（国立民族学博物館 民族社会研究部 教授）

講演2 人獣共通感染症をいかに克服するか—インフルエンザを例に / 喜田 宏（北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンター長）

講演3 プタの弁明—弥生ブタからイバリコブタまで / 野林 厚志（国立民族学博物館 文化資源研究センター 准教授）

パネルディスカッション ●司会/南 真木人（国立民族学博物館 研究戦略センター 准教授）

主催：国立民族学博物館・日本経済新聞社

講演要旨

現代社会では、食生活のなかで肉や卵を利用しているが、家畜に接する機会は少なくなった。一方で、放し飼いから舎飼いへと家畜の飼いは発展してきた。今回のインフルエンザが生まれた背景には、ウイルスの温床となった工場式の畜産があったといわれる。バングラデシュのブタの遊牧など、持続可能な資源利用のあり方を通して、地球時代における家畜と人とのつきあい方を問い直す。

講演1

人は家畜とどのようにつきあっているか？

講演2

人獣共通感染症をいかに克服するか—インフルエンザを例に

講演3

ブタの弁明—弥生ブタからイベリコブタまで

近年、新興・再興感染症が世界各地で発生し、社会を脅かしている。その多くは、野生動物を自然宿主として寄生・存続してきた微生物が病因である。このような人獣共通感染症は、自然界の野生動物と微生物の生態系を解明し、予測と予防を図る先回り戦略によってはじめて克服され得る。

ユーラシアの東部と西部とで別々に家畜化されたブタは非常に重要な家畜となってきた。一方で、宗教的に不浄な動物とされたり、悪口 material とされたりと、ブタは多面的な価値をもつ動物でもある。流通革命に伴う大量消費時代の今日、変わりつつある人間と家畜との関係を中国やヨーロッパのブタ飼養の様子をもとに考えてみる。

プログラム

- 17:30-18:30 受付
- 18:30-18:35(5分) 開会:川合 英雄/日本経済新聞大阪本社編集局長
- 18:35-18:40(5分) 挨拶:須藤 健一/国立民族学博物館長
- 18:40-19:15(35分) 講演1 人は家畜とどのようにつきあっているか? 池谷 和信
- 19:15-19:50(35分) 講演2 人獣共通感染症をいかに克服するか—インフルエンザを例に 喜田 宏
- 19:50-20:05(15分) 休憩
- 20:05-20:40(35分) 講演3 ブタの弁明—弥生ブタからイベリコブタまで 野林 厚志
- 20:40-21:15(35分) パネル・ディスカッション(司会:南 真木人)

参加申込方法

「10月9日講演会参加希望」と明記の上、①郵便番号、②住所、③氏名、④連絡先電話番号、⑤今後の講演会などのご案内送付希望の有無、を記載し、ハガキ、FAX、メールにてお申し込みください。2名様以上でお申し込みの場合は、それぞれの方の①-⑤を必ず明記してください。また、手話通訳をご希望される方、車椅子をご利用される方は、お席をご用意いたしますのでお申し込みの際に必ずご記入ください。なお、応募者が多数の場合はご参加いただけない場合もあります。9月中旬より順次参加証を発送する予定です。

*参加申込をいただいた方の個人情報、参加証の発送、次回以降の講演会などのご案内に使用いたします。

宛先 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

FAX: 06-6878-8479

E-mail: koenkai@idc.minpaku.ac.jp

問合せ先 国立民族学博物館 研究協力課研究協力係

TEL: 06-6878-8209 URL: <http://www.minpaku.ac.jp/>

注意事項・会場には必ず参加証をご持参下さい。参加証はお一人様一枚となっております。

・参加証がない方は会場には入れませんのでご注意ください。

講演者プロフィール

池谷 和信 国立民族学博物館
民族社会研究部 教授



野生動物、家畜、ペットなどの動物と人とのかわりについて、地球的視野および人類史的視点から研究を行っている。近年では、バングラデシュのブタの遊牧やタイの野生の鶏に関する調査・研究に従事。単著に『現代の牧畜民』(05年、古今書院)、『山菜採りの社会誌』(03年、東北大学出版会)、編著に『野生と環境』(08年、岩波書店)などがある。

喜田 宏 北海道大学・人獣共通
感染症リサーチセンター長



インフルエンザウイルスの生態に関する研究などに対し、日本農学賞・読売農学賞、日本学士院賞ほかを受賞。日本学士院会員。国内にあっては、政府審議会の専門委員として、国際的には、WHO、FAOとOIEの科学委員や、レファレンス研究所の責任者として動物とヒトのインフルエンザ克服に向け活動している。

野林 厚志 国立民族学博物館
文化資源研究センター
准教授



人間と動物との関わりについて、人類学の視点から調査研究を行っている。最近では、ブタが人間社会の中でどのような位置づけとされてきたかを東アジアとヨーロッパの比較研究を通して考えている。単著に『イノシシ狩猟の民族考古学』(08年、御茶の水書房)、共著に『生態資源と象徴化』(08年、弘文堂)などがある。

人・家畜・感染症

—グローバル化時代の関係をさぐる—

国立民族学博物館公開講演会

プログラム

- 17:30-18:30 受付
- 18:30-18:35(5分) 開会:川合 英雄/日本経済新聞大阪本社編集局長
- 18:35-18:40(5分) 挨拶:須藤 健一/国立民族学博物館長
- 18:40-19:15(35分) 講演1 人は家畜とどのようにつきあっているか? 池谷 和信
- 19:15-19:50(35分) 講演2 人獣共通感染症をいかに克服するか—インフルエンザを例に 喜田 宏
- 19:50-20:05(15分) 休憩
- 20:05-20:40(35分) 講演3 ブタの弁明—弥生ブタからイベリコブタまで 野林 厚志
- 20:40-21:15(35分) パネル・ディスカッション(司会:南 真木人)

参加申込方法

「10月9日講演会参加希望」と明記の上、①郵便番号、②住所、③氏名、④連絡先電話番号、⑤今後の講演会などのご案内送付希望の有無、を記載し、ハガキ、FAX、メールにてお申し込みください。2名様以上でお申し込みの場合は、それぞれの方の①-⑤を必ず明記してください。また、手話通訳をご希望される方、車椅子をご利用される方は、お席をご用意いたしますのでお申し込みの際に必ずご記入ください。なお、応募者が多数の場合はご参加いただけない場合もあります。9月中旬より順次参加証を発送する予定です。

*参加申込をいただいた方の個人情報は、参加証の発送、次回以降の講演会などのご案内に使用いたします。

宛先 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

FAX: 06-6878-8479

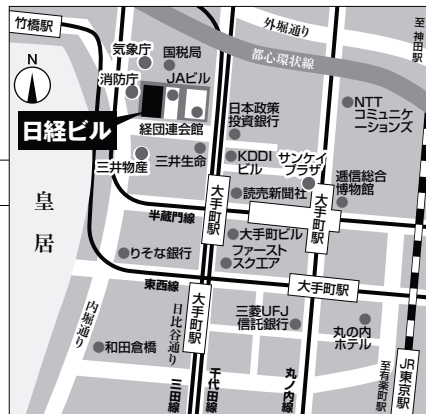
E-mail: koenkai@idc.minpaku.ac.jp

問合せ先 国立民族学博物館 研究協力課研究協力係

TEL: 06-6878-8209 URL: <http://www.minpaku.ac.jp/>

注意事項・会場には必ず参加証をご持参下さい。参加証はお一人様一枚となっております。

・参加証がない方は会場には入れませんのでご注意ください。



●東京メトロ・千代田線「大手町駅」中央改札より徒歩約4分・丸の内線「大手町駅」鎌倉橋方面改札より徒歩約5分・半蔵門線「大手町駅」大手町方面改札より徒歩約5分・東西線「大手町駅」中央改札より徒歩約9分・東西線「竹橋駅」大手町方面改札より徒歩約3分 ●都営地下鉄・三田線「大手町駅」大手町方面改札より徒歩約6分
※地下鉄「大手町駅」下車C2b出口直結

みんなく
携帯サイト

